

[学会発表]

園児から家庭へつなぐ食育の試み（第一報）

鈴木秀子、佐藤三佳

2008年5月22日

第2回日本食育学会

東京農業大学

幼児期においては、保護者による家庭での食育の実践が重要であり、幼稚園など学校関係者は、食育推進のための家庭への積極的な働きかけの役割を担うことが期待されている。そこで、幼稚園児に対する体験学習会を通じた子育て支援と、保護者に対する幼児の食と健康等に関する学ぶ機会や情報の提供等を通じた子育て支援の中で、園児から家庭へつなぐ食育プログラムを試みた。

事業実施後のアンケート結果によると、園児および保護者の食行動に改善が見られた。また、改善した保護者の割合は、改善が見られた園児の保護者の方が高かった。一方で、食行動が「もともとできている」園児の保護者においても改善が見られた。このことより、園児の食行動の変化による保護者へ影響、保護者の食育に関する意識や態度の高まり、園児と保護者の相互作用による効果があったことが考えられた。

[学会発表]

保育施設（幼稚園・保育所）における食育の実態について ～ 食育の主な担当者別集計による考察 ～

鈴木秀子、佐藤三佳、鈴木礼子

2008年9月6日

第55回日本栄養改善学会

鎌倉女子大学

子どもたちの食生活や健康の問題が大きくなる中、子どもの健全な育成に重要な役割を果たしている保育施設（幼稚園および保育所）は、積極的に食育を推進することが求められている。本研究では、福島県内の幼稚園と保育所の食育に関する実態調査を行い、食育の主な担当者（以下、担当者）を職種別に集計し、食育の実施状況や食育を推進するための方策について検討した。

調査結果、教師・保育士（以下「教師等」）が担当している施設は44.7%、栄養士・調理担当者（以下「栄養士等」）は9.4%、教師・保育士、栄養士・調理担当者（以下「教師+栄養士等」）は45.9%であった。食育の状況については、「教師+栄養士等」が担当している施設の方が、食

育に関する計画の策定状況、取り組む体制、記録の作成と評価、取り組み状況は充実していた。

一方、栄養士あるいは調理担当者が身近に存在している施設（外注を除く給食を提供している施設）において、「教師＋栄養士等」が担当している施設の割合は、園・所内調理施設では70.2%、市町村立給食センターからの配食の施設（幼稚園のみ）では20.3%と、人材が十分に活用されていない状況にあった。幼稚園・保育所の食育の推進と内容の充実のためには、施設の専門職種が共同し一丸となって取り組む必要がある。

[学会発表]

県内幼稚園・保育所における食育実態調査からの一考察

鈴木秀子、佐藤三佳、鈴木礼子

2008年9月10日

平成20年度福島県保健衛生学会

福島県農業総合センター

幼児期は、生涯に渡る健康的な生活を送るための食習慣の形成に重要な時期であり、家庭はもとより、幼稚園および保育所による積極的な食育の推進が求められている。そこで、幼稚園と保育所の食育に関する実態調査を行い、幼稚園と保育所の食育の推進方策について、施設の食育の取り組み状況から検討した。なお、取り組み状況については、施設自身の食育に対する自己評価と捉えた。

調査の結果、食育の取り組み状況については、「十分に取り組んでいる」と回答した施設が20.5%、「取り組んでいるが不十分である」施設が72.4%、「まだ取り組んでいない」施設が6.6%であった。しかし、取り組み状況の回答に違いがあったものの、取り組んでいる内容には大きな差は見られなかった。計画の策定については、食育計画を策定し教育・保育計画及び年間指導計画に盛り込んでいる施設の方が「十分に取り組んでいる」と回答した施設が多く、「まだ取り組んでいない」施設のほとんどが食育計画を策定していなかった。食育に取り組む体制（食に関する話し合いの場の設置、食育に関する記録の作成・計画・実践の評価の実施）については、整備されている施設の方が「十分に取り組んでいる」と回答した施設が多かった。食育推進上必要だと思うことについては、「職員の共通認識」を選択した施設の方が「十分に取り組んでいる」と回答した施設が多かった。

主な担当者については、教師・保育士+栄養士・調理担当者と複数の専門職種の方が「十分に取り組んでいる」と回答した施設が多かった。

今回の調査結果では、食育の取り組みについて「十分に取り組んでいる」と高い評価をしている施設は少なかった。一方、施設が「十分に取り組んでいる」と評価するためには、施設に

関わる複数の専門職種が連携し、それぞれの専門からの食育を、組織的に取り組んでいくことが重要であることが確認できた。